

被災の子ら500人教訓伝えたい

防災の日

世界会議へ事前学習

各地に大きなつめ跡を残した台風など、自然の怖さを感じさせた今年の夏。列島は一日、「防災の日」を想定し、静岡は東海地震に備え訓練に取り組んだ。阪神・淡路大震災の被災地兵庫では、子どもたちが阪神・淡路大震災の記憶を語り継ぐため、来年の国際会議開催に向け、被災した世界各地の子どもとインターネットで防災などの情報交換を始めた。

防災の取り組みを情報交換。どうすれば災害から命を守るか、助け合えるかを話し合い、その成果を「ひょうご宣言」として会議で発表する。

ネットによる学校間の国際交流を支援するNPO法人「ジェイアール」(本部・神戸市中央区)が呼び掛け、全国の教師や防災・情報通信の専門家らが実行委員会を作り主催する。震災から九十年となる来年一月に、神戸市で開かれる国連防災会議の「子ども版」を目

指す。イラン、アルメニア、エジプト、台湾など海外十一カ国、二十校以上の参加が決まった。日本からは、神戸市の県立舞子高校環境防災科、神戸大付属住吉中や啓明学院中、名古屋の小学校など十五校が参加する。災害発生メカニズム▽各被災地の被害状況▽被害を少なくするための防災力ーといったテーマごとに五つのグループに分かれ、会議に向けた調査学習や学校間の情報交換などを始めている。

ネットで中学生 エジプトと交流

八月三十一日夜には、明石市立野々池中学校の生徒会役員五人が、テレビ会議でエジプトの高校生ら約百人と交流。英語

実行委員長の岡本和子さんは「災害から学んだ命の尊さ、共生の大切さを子どもたちの視点で発信、継承できれば、地球規模で防災を考えられる大人になってほしい」と期待する。実行委は運営ボランティアを募集している。☎078・251・6833。(石崎勝伸)

来春 淡路で開催

M8.6、津波到達想定

近畿各地で防災訓練

防災の日(9月1日)、近畿の各地で東南海・南海地震を想定して、自治体や小学校などが防災訓練を実施した。

大阪府では国や沿岸十

の岬町に二時間後、大阪市内に二時間後に津波が到達する想定で訓練を開始。府内二百三十カ所の水門や防潮壁に職員などが集まり、実際に閉鎖した。

和歌山県では職員約百二十人が、自衛隊の派遣要請や、到着した自衛隊の道路利用方法を大阪府と確認したり、県内の各

市町村に津波情報をファクス送信した。

追突事故で 3台が炎上

愛知・東名高速

一日午前三時半ごろ、

愛知県豊川市平尾町の東名高速道路上り線で、走

遮断機折れ電車

台風で 2万6000人

一日午前六時半ごろ、戸線西明石―大久保間踏切で、遮断機が折れてい

エジプトの高校生とテレビ会議で交流する明石市立野々池中学校の生徒たち(兵庫県加東郡社町、県立教育研修所)

